
1年前のプレゼント

中後空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1年前のプレゼント

【Nコード】

N4171B

【作者名】

中後空

【あらすじ】

彼氏の聡が死んで1年が経った日。その日は美久の誕生日でもあった。聡の双子の弟、剛が預かっていたというプレゼントを渡しに来る。そのプレゼントは、思いもよらない物が入っていた。

ハツとして目が覚めた。

頬に涙が伝って流れていくのを感じた。

あれから1年。七夕の今日は私の誕生日。

そして、聡が死んで1年になる。

「出かけるの？」

「うん。聡のどこ」

「あんまり、長居したら駄目よ。今日は、家族で過ごしたいだろうから」

わかってる。そんなことぐらい。

「行つてきます」

逃げるように家を出た。

聡とは、お隣同士で、幼馴染みで、私の彼氏だった。1年前、私との待ち合わせ場所に、聡が来ることはなかった。

インターフォンを押す指が躊躇してた。

「はい？」

「あ、美久です・・・」

ガチャッと玄関のドアが開くと、おばさんが笑顔で迎えてくれた。

「美久ちゃん、いらっしやい。どうぞ」

懐かしい匂いがした。

「本当に早かったわね。昨日のことみたい。美久ちゃんにも、迷惑かけたわね」

仏壇前で手を合わせてる間おばさんは、ずっと話しかけてくれた。目を開けると、仏壇に飾られた写真の聡が優しく笑っていた。

「お茶でも飲んで行けばいいのに」

「いえ、すいません。急に来ちゃって」

「お邪魔しました！」

トントンと階段を下りる音が聞こえた。

慌てて帰る。

「あら、やつと起きたわ」

「誰か、来てたの？」

「美久ちゃんよ。お線香あげに来てくれたの。あなたも早く準備してね。11時には、出かけるから」

母さんはそう言って台所へと歩いて行った。

剛、頼みがあるんだけど。

これ、美久に渡してくれない？

なんで、俺が？

いや、お前しか頼めないんだ・・・

そんな会話が1年前。

「すっかり、忘れてた」

「どう見ても、ただの紙だよなあ・・・」

聡から預かっていた手紙を見ながら思わず呟く。

聡と俺は双子で、聡が事故で死ぬ3時間前に、俺はこの手紙を渡された。

久美への誕生日プレゼントって言ってたけれど、渡しそびれていた。俺も美久も、それどころじゃなかったから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4171b/>

1年前のプレゼント

2010年11月5日13時35分発行